2019~2020 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

RI 会長テーマ

会　長　鈴木　信男
副会長　古内　一二
幹　事　三浦　和士

＝会長指針＝

未来につなげよう

・・・　例　会　記　録　・・・

３月第４週例会　２０２０年　３月２６日（木）

ソ　ン　グ　：　奉仕の理想　　ボックス　：３０，０００円　（報告者　佐藤　良会員）

本日出席率　：　６３．４６％　前回修正後１００％（ﾒｰｸｱｯﾌﾟ１７名）　（報告者　新沼達央会員）

志田宏美会員に
2020-2012 年度地区国際奉仕委員会
青少年交換(短期）委員の委嘱状を交付

★　会長の時間　：　鈴木信男会長

皆様お久しぶりです。

●RI 会長はロータリーの例会について、３月１４日には、「状況が刻々と変わるため、クラブと地区の会合や行事、ロータリーのプログラムと活動については、皆さまが各自で判断されることを推奨いたします。」と話し、３月１４日には「国や地元の保健当局の勧告に従って、開催予定の会合や行事を中止または延期することを推奨します。」と言っています。これからのクラブでの例会開催を検討する時期に入っていると思います。

●新型コロナウイルスに関する国の支援策（特別融資・助成金・税金）

特別融資・　新型コロナウイルス感染症特別貸付危機対応融資（商工中金）
　　・　　新型コロナウイルス感染症特別貸付（日本政策金融公庫）

助成金　・時間外労働等改善助成金
　　・小学校等の臨時休業等に伴う保護者の休暇取得支援　（事業者への新たな助成金制度の創設）

税金　　・納税が困難な場合の融資制度　　・国税電子申告２４時間受付
　　・振替納税の口座振替日の延長　　・申告所得税の申告・納税期限の延長の対象となる手続き

●ガバナー月信に水と衛生月間によせて山口康文会員のメッセージが掲載されています。
また、山口会員は防災・市民メディア推進協議会の新理事長に就任しています。

◆◆◆　　幹事報告　　◆◆◆

1　ガバナー事務所より　　青少年交換(短期　オクラホマ受入）プログラム中止のお知らせが届いています。
　次年度新規応募については、見通しがつき次第の連絡とするとの事です

2　盛岡西北ロータリークラブ　　創立３０周年記念式典等出席へのお礼状が届いています。

3　国際ロータリーデータサービス担当部より　下記についての報告が求められております。
2020-21 年度のクラブ会長、幹事、常任幹事／クラブ事務局常務職員、会計、
ロータリー財団委員長、会員増強委員長のお名前と連絡先　　締切り 3/31

◆◆◆　　本日のプログラム　　◆◆◆

国際奉仕アワー　：　下斗米　霞　様　講話

◆　自己紹介

中国名　：　高　霞　（こう　しゃ）
出　身　：　中国　大連　平成 11 年４月来日
居住地　：　猪川町
勤務先　：　東日本大震災津波伝承館にて、中国語解説員
　　陸前高田市の通訳ガイドとしても活躍
来　日　：　平成 11 年４月来日
家　族　：　長男　大学２年生　今年成人　　次男　中学２年生

◆ 日本に来るきっかけ

中国にいる時は日本に憧れて「行けたら行ってみたいなぁ～」という思いがあった。友達から日本人との結婚はどうですかという話があって、お見合いして、何にも考えず日本に来た。怖いもの知らずの若さでしょうね。今なら色々考えると思います。日本語も全く分からないまま日本に来ることになった。その時は全く心配することがなかった。若い時の自分が「すごいなぁ」と感心しています。

◆ 日本についての第一印象

仙台空港に到着し、静かな、清潔な街と思った。自家用車に乗って岩手に向かって、もちろん地理位置も全く分からない、どういう道を走るか、どのくらいの時間かかるか全然わからないし、高速道路を走って、ゆらゆらしているうちに眠くなって、どのくらい時間が経ったのかわからないけど、目が覚めたら山の中に走っている。曲がりくねった道に車も少ないし、家などの建物もない、森、山ばっかり。当時は今みたいにインタネットが普及していない、情報が少ない時代ですが、私の中には日本といえば東京や大阪などの都会のイメージがしかない。大連の高層ビルを見慣れた私、陸前高田に着いたら、驚きのあまり「ここは本当に日本ですか」という疑いがありました。

◆ 文化・習慣等の違い

「郷に入っては郷に従う」という諺がある。言うのは簡単ですが、実は難しいです。色々乗り越えなければならない。

ここにいる皆様が、外国に行った経験があるでしょうね。外国に行ったら一番大事なのは何でしょうか。私は一番大変だと感じたのは「食文化」です。中華料理は炒め物が多い、日本料理は淡白で、ほとんどの日本料理は鰹だしを使います。鰹だしの匂いに慣れなくて、煮物、味噌汁、そば、うどん等一般的な家庭料理を全然食べられなかった。もちろん刺身やお寿司など高級料理も無理でした。でも今では日本本料理に慣れて、家でも日本料理が多いです。食べられない日本料理がないほど日本料理が好きになりました。

日常生活中の習慣は座布団の使い方にまつわるお話ですが、日本に来てもない時、親族をお招きする機会があり、親族の方々が家にいらして挨拶するとき、目の前に座布団があって、私が立派に座布団の上に正座して頭を下げて挨拶したが、後で回りを見て、皆が座布団から降りて挨拶している「これはどういう事でしょうか」。今思い出しても恥ずかしいなと思っております。

◆ 日本語の勉強を始めたきかっけ

車がないと不便です。何とか免許を取りました。少し自由に動けた。子供が生まれて母親として子育てしなければと思い、せめて子供に絵本を読んで聞かせたいと日本語の先生に教えて貰って、日本語能力試験を受けて一級合格しました。

最後になりますが「住めば都」という諺もあります。この気仙地方に20年も住めば、この静かなところに慣れて、ここは自分にとって第二の故郷です。

これからも自分が一人の日本人として、自分ができる事に力を注ぎたいとおもっております。

私は大船渡の猪川に住んでいます、これからも皆様とどこかで会うかもしれないが、そのとき声をかけていただければ嬉しいです。

拙い日本語で、申し訳ありませんでした。私の話はここで終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

参加者は大船渡西ＲＣ　13人　宇都宮東RC　４人　地元公民館から２名

市役所　３名　東海新報記者　１名

緑地広場にサクラ植樹

三陸町綾里　大船渡西と宇都宮東ＲＣ

大船渡市の大船渡西ロータリークラブ（鈴木信男会長、以下大船渡西）と栃木県の宇都宮東ロータリークラブ（旭英幸会長、以下宇都宮東）は28日、三陸町綾里字港地内に整備された綾里地区緑地広場（愛称・あやさとふれあい広場）にサクラ4本を植樹した。両クラブや市の関係者らが出席し、満開のサクラが地域住民の笑顔につながるよう願った。

宇都宮東は、大船渡市内の事業所とつながりがある会員・太城敏之さんの縁で、東日本大震災後の大船渡を支援している。

サクラの植樹は、大船渡西の創立50周年記念事業と、宇都宮東の同60周年記念事業を合わせた共同事業。震災から10年の節目に合わせ、平成30年度から取り組みを展開しており、本年度は三陸町内にサクラ約40本を植える計画。

この日は6㍍ほどに成長したサトザクラとシダレザクラの計4本を植樹。鈴木会長や太城さんら両クラブの会員と、市の関係者ら約20人が作業を行い、あらかじめ設置されていた木の根にスコップで土をかぶせた。植えたサクラは、早ければ今春にも花を咲かせるという。

同広場は、地域の新たな交流拠点として震災の津波浸水域に整備。広場のデザインを提案した綾里地区まちづくり委員会（佐藤榮委員長）が市指定管理者となり、4月1日（水）に正式オープンを迎える。

大船渡西の鈴木会長は「遠いところから継続して思いを寄せていただきありがたい。各地でさまざまな災害が起きているが、これからも互いに協力し合える関係を築きたい」と語る。

太城さんは「サクラを植える事業は来年で終わるが、大船渡との関係は終わらない。これからも被災地復興の援助を続けたい」と話していた。

サクラの植樹を行う太城さん㊧ら宇都宮東メンバーと鈴木会長㊨（電子新聞に別写真あり）